

市立柏病院の未来

市立柏病院(布施1-3)は、旧国立柏病院の有償払い下げを受け、平成5年に開院しました。200床16診療科目を有し、地域のかかりつけ医の役割(一次医療)と、市内での救急や手術・入院等(二次医療)の双方を担っています。

市では、平成24年度策定の中期構想で建て替え方針を立て、翌年度、整備基本方針で現地建て替えと、用地を取得して移転建て替えの2案を示し、その判断は市が行うこととなりました。移転候補地は、柏の葉キャンパス駅から約800メートルの場所です。

以来、多くの利用者や市民の皆様から現地建て替えを望む声をいただきました。これは市立柏病院への信頼と安心、身近な医療が失われることへの不安として重く受け止めています。

市立柏病院をどこに建て替えるか。それは、市立柏病院が今後何を目指すかに他なりません。

一つは、市立柏病院は建て替え後、小児医療に力を入れたと考えています。柏市で安心して子育てができるよう、乳幼児から学齢期まで幅広く子どもたちの健康を守る、次世代育成に向けた小児医療の拠点とすること。これには多くの小児科医が必要となりハードルが高いですが、公立病院として目指す姿の一つです。

もう一つは、国の医療制度が変わる中、病院が選ばれる時代になり、200床規模の二次病院として、地域医療圏への貢献と経営を両立させるために、専門性を高め特色を持つことが、市立柏病院が目指すもう一つの姿です。

これらを背景に、柏の葉という新しい場所で新しい市立柏病院を目指していきたいと考え、先月、苦渋の選択ではありますが、移転の方向性と現地での一次医療を維持する考えをお示したところです。

建設地については、多くのかたがさまざまなご意見をお持ちと思います。また、建設費や運営費に多くの市税を投じることとなるため、市立柏病院を利用していないかたにも関心を持ってほしいと思います。今後、市民の皆様への説明会を開催する予定です。市立柏病院の未来に向けた私の思いをお伝えするとともに、多くのかたのご意見を聴かせていただきたいと思います。

市長室
だより

秋山浩保

51

